

早稲田まちづくり シンポジウム 2018

プラクシスと
ポイエーシス

社会デザインと 計画論 の未来

- 1880 W. モリス / アーツ&クラフツ運動(1880's-)
- 1910 P. ゲデス / 『進化する都市』(1913)
G. ゴンメル / 『社会学の根本問題』(1917)
バウハウス (1919-1933)
- 1920 R.E. パーク, E.W. バージェス, D. マッケンジー / 『都市』(1925)
今和次郎 / 考現学(1927-)
- 1930 J. ユクスキュル / 環世界(1930)
和辻哲郎 / 『風土』(1935)
- 1950 吉阪隆正 / 不連続統一(1950)
- 1960 K. リンチ / 『都市のイメージ』(1961)
J. ジェイコブズ / 『アメリカ大都会の死と生』(1961)
A. ルロウ＝グーラン / 『身ぶりと言葉』(1964)
M. マクルーハン / 『メディア論』(1964)
B. ルドフスキー / 『建築家なしの建築』(1964)
P.L. バーガー&T. ルックマン / 『現実の社会の構成』(1966)
川喜田二郎 / KJ法(1967)
- 1970 E.T. ホール / 『社会がもたらした次元』(1969)
V. パバネック / 『生きのびるためのデザイン』(1970)
M.S. グラノヴェッター / 「弱い紐帯の強さ」(1973)
デイヴィッド・ハーヴェイ / 『都市と社会的不平等』(1977)
C. アレグザンダー / 『パタラコロジー』(1977)
- 1980 J.J. ギブソン / アフォーダンス(1977)
H.R. マトゥラーナ&F.J. ガレラ / オートポエシス(1980)
M. ド＝セルトー / 「戦略」と「戦術」(1980)
- 1990 N. ルーマン / 『社会システム理論』(1984)
- 2000 J. ブルーナー / 『意味の復権』(1990)
R.D. バットナム / 『孤独なボウリング』(2000)
M. カステル / ネットワーク社会(2001)
B. ラトゥール / アクター・ネットワーク理論(2005)
クリップENDORF / 『意味論的転回：デザインの新しい基礎理論』(2006)
- 2010 J. アーリ / 『モビリティーズ』(2007)
P. ヒーリー / 『メイキング・ベター・プレイス』(2010)
P. エルゲラ / ソーシャル・エンゲイジド・アート(2011)

プラグマティズム

サイト
スペシフィック

社会
イノベーション
(social
innovation)

参加型デザイン
(participatory
design)

アクション
リサーチ

主催：早稲田まちづくりシンポジウム
2018 実行委員会

共催：早稲田大学都市・地域研究所
早稲田都市計画フォーラム
早稲田大学先端社会科学研究所

2018年7月15日(日) 10:00 START

早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

10:00 - 開会挨拶 + 趣旨説明

社会デザインを再定義する

社会デザインは、さまざまな実践を重ねる一方、学問的には展開過程にあります。議論に先立って社会デザインの意義を新たに整理します。

早田 幸 (早稲田大学社会科学部)

10:45 - セッション1

まちの物語を紡ぐ

物語をキーワードに、まちや地域に潜在している文脈を浮き彫りにする取り組みを紹介します。まちの人々とのコミットのあり方を考え、新たな価値や意味を生み出す方法を探ります。

司会 佐藤 洋一 (早稲田大学社会科学部)



石野由香里
(早稲田大学講師/俳優・演劇ワークショップ主宰)

俳優/演劇ワークショップ主宰。早稲田大学教員。コミュニティや地域社会の現代的問題に対して、様々なアプローチから解決の糸口を探る。演劇的発想とメソッドを地域づくりや教育へ活かす方法の開発に取り組み。



沼田 真一
(早稲田大学講師/映画づくりワークショップ主宰)

早稲田大学社会科学部総合学術院 非常勤講師。博士(社会科学)。主な研究テーマはナラティブ論、ネットワーク論、ワークショップ論。「実践」と「理論」を行き来する「アクション・リサーチ」を重視した研究を行う。



松本 篤
(AHA! 世話人、remoメンバー/コミュニティ・アーカイブ主宰)

8ミリフィルムや家族アルバムといった市井の人々の記録に着目したアーカイブプロジェクト、AHA!(アハ)を2005年から運営。近年は井の頭自然文化園で飼育されていた象のはな子の69年に光をあてた『はな子の風景』に取り組み。

13:20 - セッション2

情報技術で関係を結ぶ

ICTが浸透していく中で、人々を関係づける情報技術の選択肢も広がっています。技術との付き合い方を再考しつつ、社会関係の新たな構築方法とその波及効果を探っていきます。

司会 藤原 整 (早稲田大学社会科学部)



石塚 清香
(横浜市経済局新産業創造課 ICT 専任職)

平成3年横浜市入庁。複数のIT部署を経験後、オープンデータを活用したパーソナライズ型子育てポータル企画・構築や官民協働型防災システム開発等に関わる。平成29年より現職、平成30年からは総務省地域情報化アドバイザーも兼任。



花村 創史
(株式会社ビザスク CTO)

株式会社ビザスク CTO/共同創業者。大手 SNS 会社での海外向けプラットフォーム開発プロジェクト等を経て、2013年にビジネス知見のマッチングを行うスポットコンサルティングサービス、ビザスクを起業。横浜国立大学博士課程中退。



三澤 直加
(株式会社グラグリッド代表取締役)

共創型サービスデザイン会社「グラグリッド」設立。商品企画や地域コミュニティの現場で、グラフィックファミリーデザイン技術を用い、人の価値観に寄り添うサービスデザインを支援。金沢美術工芸大学非常勤講師。

15:10 - セッション3

小さなもののデザインで繋ぐ

「身近にある小さなものに新しい価値を付加する」デザインによって、人と人との繋がりが生まれ、地域を豊かにしている事例を紹介します。オリブオイル、竹の手ぼうき、北釜クイーンメロンで、何が変わったのでしょうか?

司会 落合 基継 (早稲田大学社会科学部)



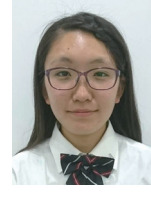
新井 利昌
(農福一体ソーシャルファーム)

知的障がい者生活寮「年代寮」寮長を務めながら大学を卒業、1996年に埼玉福興(株)を設立。埼玉県にて障がい者と共に野菜の栽培・利用加工などを手がけ、ソーシャルファームという概念で社会的就労困難者の働く場を創出している。



曾和 治好
(NPO法人地球デザインスクール、竹の学校)

造園家・デザイナー。宮津・竹の学校(平成30年度 都市景観大賞・優秀賞受賞)にて、手ぼうきワークショップを展開する。机の上のの庭「デスクトップガーデン」をミラノサローネにて発表。手ぼうき WS に対し、京都デザイン賞など受賞多数。



門間 優花
(宮城農業高校農業経営者クラブ)

宮城県農業高等学校の食品化学科に在籍し、農業経営者クラブではジェラートの商品開発リーダーを担当。将来は調理系に進み、自分でカフェを開くことが目標。高校卒業までにはできるだけ色々な事に挑戦中!

17:00 - 17:30

キーセンテンスの紹介 / まとめと展望

セッションの発表と議論を振り返り、そこでのキーセンテンスをまとめて紹介する時間です。ミクロな実践とマクロな計画論とを結びつける道筋を見出していくことが、シンポジウムの最終目標です。

18:00 - 20:00

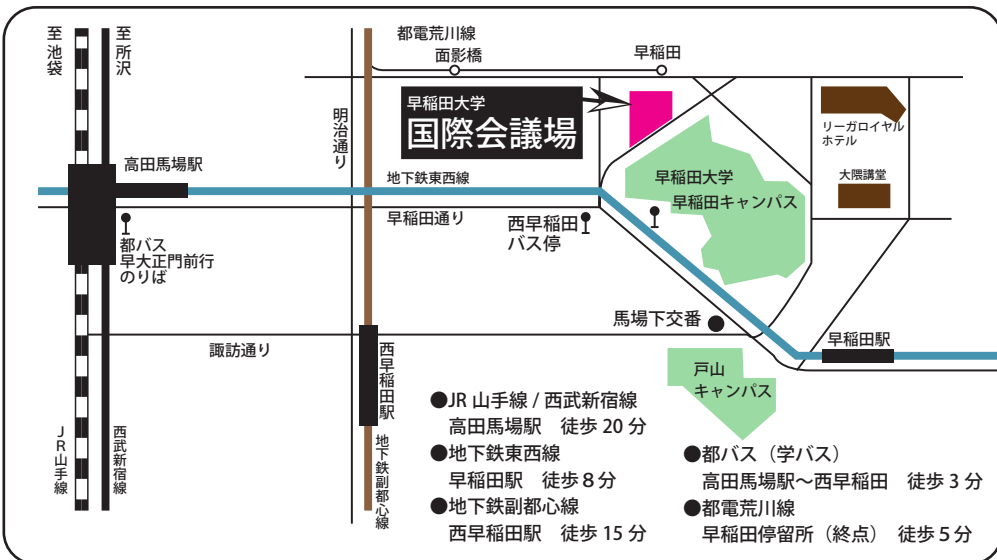
懇親会

シンポジウムを振り返りながら、登壇者の方々と交えて、主催者とともに、自由に懇談できる場を作ります。軽食とお飲物を用意いたします。



菅生 琢磨 (宮城農業高校農業経営者クラブ)

宮城県農業高等学校食品化学科3年。弓道部と農業経営者クラブに所属して活動中。生き物についての研究に興味を持っており、将来は生き物に関係する仕事に就くことを希望。



参加申込 以下のいずれかでどうぞ

①WEB 早稲田都市計画フォーラム Homepage <http://www.toshiforum.arch.waseda.ac.jp/sympo.html> →参加フォームにご記入願います

②e-mail: soc.design2018@gmail.com

③TEL: 03-3203-9042(担当:佐藤)

④FAX: 03-3208-7288

→②③④は氏名・連絡先・区分(会員/一般/学生)の記載をお願い致します



@soc_design2018

議論のためのハッシュタグ #soc_design



<https://www.facebook.com/events/239086486848153/>



soc.design2018@gmail.com

お問合せ 早稲田まちづくりシンポジウム2018実行委員会
〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学 14号館 9階 914室



03-3203-9042
(担当:佐藤)